

薬学教育6年制では、医療・臨床に強い薬剤師を養成する観点から、質の高い実務実習を行うことが重要なポイントとされ、このため6ヶ月間の長期実務実習が必修となった。実務実習は1ヶ月間の事前教育を経て、薬局実習と病院実習をそれぞれ2.5ヶ月ずつで構成されることになっている。長期実務実習がスムーズに実施されるかどうかは、6年制の成否にも関わる大きな問題だ。同時に実務実習は医療の現場で行われることから、実習開始に当たっては、学生が実習を受けるにふさわしい知識・技能を備えているかが問われる。それを担保するため、各大学で共用試験が実施されることになっており、現在そのあたりについても検討が進められている。

大学と受け入れ施設連携がカギ 「ふるさと実習」の仕組み提案

病院実務実習に関しては、大学と病院との密接な協力関係、相互理解が不可欠と指摘されている。日本病院薬剤師会では実務実習の学生を受け入れるため、「グループ病院実習」「ふるさと実習」という仕組みを提案し、そのシステム構築を進めてきた。

この考え方の根底に流れているのは、全ての学生に均質性の確保された実習内容を提供すること。病院の分布や学生数の急増といった問題がある中、各大学に格差の出ない環境で実務実習を履修させる意味で、グループ病院実習制度のシステム化は合理性の高い提案といえるだろう。日病薬も、「附属病院を持たない大学が大多数という現状では、グループ病院実習、ふるさと実習を導入して進める以外に手段はない」と説明している。

また病院実習の意義について、病院薬剤部の現場に勤務している薬剤師らは、現場でしか体験できないことや、現場の発想に基づくものが多いことを強調している。さらに実際に薬学生が病院へ実習に出る場合、体力的にも精神的にも非常に厳しい負担がかかるとの考え方から、将来の方向性として大学教員たちも病院実習を体験したり、病院で学生の指導に当たる必要性等も指摘されている。

具体的には今後の薬学教育の理想的な方向性について、「大学教員が臨床現場を体験し、その体験に基づいて薬学教育に取り組むことが重要。その根底にあるのは命の尊さであり、そこをしっかりと押さえることが必要だ」といった声も挙がっている。

薬局実務実習においても、大学側と受け入

円滑な6年制 移行への課題 長期実習と共用 試験等が焦点

れ施設の連携を進めることの重要性が強く指摘されているが、それ以前の基本的な課題として、実習施設の確保も重要である。

今年度の入学定員は約1万2000人。これだけの人数が、4年後の2010年度から実務実習を開始することになる。

日本薬剤師会等の考え方では、薬局が1年間に2回、それぞれ1人ずつの学生を受け入れるという方式だ。これに従えば、単純計算しても約6000軒の薬局が必要ということになり、最低限それだけの施設を確保しなければならない。さらに現実の運用として、学生は薬局へ2カ月半通うことから、実習先の薬局が下宿先や実家の近くなのかという基本的問題もある。

これらを踏まえると、やはり「ふるさと実習」という考え方方が非常に重要になってくる。だが、実際に「ふるさと実習」が行われた場合、学生が通う薬局と大学との距離が非常に遠いケースも出てくる。そのため実習生を受け入れる薬局と大学との連携を図ることが重要であり、互いの信頼関係を構

築することが必要だと指摘されている。

大学側も実務実習に関しては、丸投げするのではなく、受け入れ施設側との緊密な連携、コミュニケーションを取り、積極的に検討する姿勢を示している。

実習費用の問題に関しては現在、大学、病院、薬局の3者で議論が進められている最中だ。受け入れ施設側は、実際に学生を受け入れるには、それなりの準備も必要であり、ある程度の経費がかかると主張する。特に長期実務実習の導入により、実習期間が今までより長期にわたること、実習もモデルコアカリキュラムに基づいた細かい

中身を求められることなど

から、従来より多くの経費

が必要になると想定されて

いる。経費の発生は大学側も認め、応分の負担をすることでコンセンサスが得られており、これから具体的な額が決められることになる。

一方、実務実習へ臨むに値する知識・技能が備わっているかを見る共用試験は、知識を問う試験「CBT」と、技能・態度を評価する実技試験「OSCE」の2本立てで行われることが決まっている。

また、分野の棲み分けはせず、共用試験の出題範囲

知識・技能を問う共用試験 CBTとOSCEの2本立て



日本薬学会が武庫川女子大学で行ったOSCEトライアル



就職の成功を支援いたします。
豊富な求人情報
個人の就職活動では入手困難な求人情報も全国から多数寄せられています。

登録から紹介まで一切無料です
キャリアアップが実現するまで、何度もご相談ください。当然、プライバシーの保全には万全を期しております。

万全な体制でバックアップ
経験や能力をフルに發揮できる最適なお仕事を責任を持ってご紹介いたします。

薬剤師派遣スタッフ 同時募集

「好きな時間に働きたい」「いろいろな職場で経験を積みたい」など
ご自身のスタイルでお仕事が選べます。スキルが活かせる分野で思いっきり活躍してください。

薬剤師
というお仕事。

お問い合わせ・受付 0120-013-969
求人情報掲載中 <http://www.krasys.co.jp>

クラシス 株式会社
厚生労働大臣許可(般13-010613)(13-ユ-010302)

東京本社: 〒101-0061
東京都千代田区三崎町2-10-10 矢野ビル2F
大阪支社: 〒530-0026
大阪府大阪市北区神田町14-22 シティビル梅田6F

にはならなくとも薬剤師国家試験の出題範囲になること、国試と共用試験は難易度で差別化を図り、共用試験は正答率80%となるように出題設定することなどが、基本的考え方には據えられている。

CBTに関しては現在、各大学から東京理科大学にあるセンターサーバに問題が集積されている段階であり、今までの蓄積数は約1万題に上っている。現在は事前評価が進められており、その後5月中旬～7月中旬に再評価、さらに7月初旬～8月初旬に最終評価（分野別調整）を行う段取りだ。それらを経て、8月以降にトライアルが実施される予定だが、トライアルは、2010年の本格実施までに、3回以上は行う必要があるとの考えも示されている。

第三者評価も、引き続き検討が必要な課題の一つだ。現在は、評価基準や基準の観点、ガイドラインなどの評価指針まで含めて検討する方向で進められている。

今後の課題は、評価の中身である基準やガイドラインを、どのように完成させていくかであり、①外部委員も含めた検討②各大学や関係省庁からのパブリックオピニオンの聴取③自己トライアルなどを経て、全国薬科大学長・薬学部長会議で最終決定される見通しだる。さらに、評価の実施機関や評価手順なども検討課題に挙がっている。

また行政当局も、6年制教育や実務実習を、側面から支援していく姿勢を打ち出している。

厚生労働省は、05年度からワークシヨップ及び講演会を通じて、長期実務実習の実施に伴う指導薬剤師の養成に取り組んでいる。08年度をメドに、約7000人の指導薬剤師を養成する計画だ。今年度からは予算も上積みし、規模を拡大して実施する方針であり、「力を入れて進みたいと考えている」と話している。

文部科学省は、今年度予算で新たに「臨床能力向上に対する質の高い薬剤師養成」を進めていく方針だ。6年制の薬学科を持つ国公私立大学を対象として、質の高い医療人を養成するための特色ある取り組みを公募・選定し、3年間の財政支援を行うもの。こうした支援措置を通じて各薬科大学が競争し、薬剤師養成教育の新しい姿を築き上げていくことを期待している。

文科省や厚労省も支援策